

ことを強調して、会員のお得感をアピールしていると話されました。

最後に、兵庫県手をつなぐ育成会理事長の井上三枝子氏は県育成会としてアンケートを行って会員の思いを調査し、所属の尼崎市育成会では会員を世代別に、幼中小・高～40歳・41歳以上に分け、それぞれの年代に沿ったテーマで話し合い実効性のある活動を目指していることを紹介されました。

又村氏はまとめとして、「今はネットがあるから育成会はいらないでしょうと言われるますが、ネットの情報はバイアス(偏った見方等)がかかっています。一般的な制度の話などはネットでも充分ですが、育成会は地元ならではの生きた情報を発信してください。仲間が居て楽しい活動があると人は集まります。」と結ばれました。大阪市育成会にも学齢期の方、卒業すぐの方が新規で入られました。お若いお母さん方のニーズに応えられるよう全力で取り組んでまいります。

社会福祉法人 都島友の会 児童発達支援センター
こども発達サポートステーション それいゆの
「体験談を聞く会」に出席して

理事長 長谷川 美智代

9月11日(水)に、社会福祉法人都島友の会児童発達支援センター こども発達サポートステーション それいゆ(以下それいゆ)で開催された「体験談を聞く会」に出席してきました。

「それいゆ」は、昭和51年に「大阪市立精神薄弱児通園施設 都島こども園」の園名で、公設民営の施設として開設され、都島友の会が運営を委託されました。私の息子は、現在32歳ですが、3歳で初めて通った集団生活の場が、この「都島こども園」です。息子が卒園してから28年が経ち「都島こども園」は、平成24年の法改正により、知的障害児通園施設から児童発達支援センターに変更となり、平成27年度末には、大阪市の指定管理者制度が終了、平成28年4月より現在の園名となりました。

令和元年には新しい園舎も完成し、「杜」のイメージがいたる所にある素敵な建物で、毎日通園のこどもたちの療育や就園児対象のグループ療育(月2回)が行われています。そして、保護者支援として年に8回ほど保護者全体学習会を実施されていて、今回のような卒、転園された保護者の方から体験談を聞く会は、毎年開催されているとのことでした。

今年4月に当法人の評議員でもある中島 進様が、「それいゆ」の園長に就任されたというご縁もあり、

この度、私の方に講演依頼のお声がけをいただいたのですが、卒園児の保護者としては、かなり年のいった先輩ママになりますので、自分の体験が果たして参考になるのかどうか、少し心配でした。

ところが、事前に質問をまとめたものをいただき拝見すると、「いつ頃から見学に行きましたか?」

「各進路先(地域の小学校か支援学校か)を決めたポイントは?」「小学校の通常学級や支援学級の授業は、本人のペースに合わせた内容ですか?」「友達とのトラブルはありませんか?」「登下校の付き添いは、どうされていますか?」「在籍されている学校からの転校を考えたことはありますか?」等々、私が息子の就学前に知りたかったことと同じような内容でした。

新たな進路を決める時の見通しがもてない不安な思いは、福祉サービスや教育環境が整ってきた今でも変わることがない親の思いであることを実感しました。参加された保護者の皆さんは、若い先輩ママさんお二人と私の話を熱心に聞いて下さっていたので、これからの進路選択に向けて、少しでもお役に立てたら嬉しく思います。

【「体験談を聞く会」が開催されました

／こども発達サポートステーションそれいゆ】



会員向け学習会「わたしの避難(逃げる)の計画」
～天気予報とマイタイムライン～を開催しました

事務局長 飯塚 聡

昨年度と今年度の会員向け学習会では、近年の自然災害が激甚化していることもあり、防災に関する内容をしています。

これまでも「防災情報の集め方」、「避難行動要支援者名簿と個別避難計画」、や「災害備蓄食」について、実施してきています。

9月の学習会では避難行動計画の「マイ・タイムライン」をテーマにしました。このマイ・タイムラインとは、個々で作る避難計画のことです。

市町村等で広報をしているマイ・タイムラインには、